

令和6年度 学校図書館実践報告資料

新潟市立中野小屋中学校

1 実態

本校は、全校生徒35名で新潟市内で一番生徒数の少ない中学校(1年11名、2年14名、3年10名)である。図書スペースは、図書館と図書館脇のラウンジを活用している。全校集会がある日を除く、毎日8:20から8:35までの15分間を全校朝読書に当てており、生徒は落ち着いて取り組んでいる。開館は、授業開始から授業終了時までである。また、年4回、定期テスト後に「生活見直し週間」が設けられており、その期間に「うちどく読書記録のノート」を記入し、提出してもらっている。年間貸し出し冊数は、1人あたり平均22冊と市の平均を上回っている。

課題としては、学習センター、情報センターとしての機能がやや弱い点である。

2 取り組み

(1) 読書センターとして

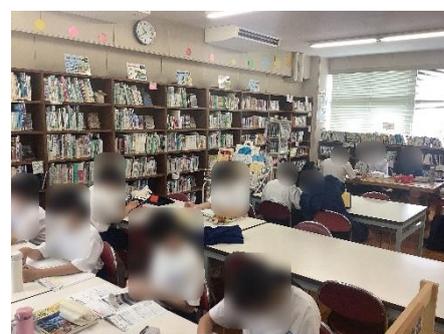
- ① テーマ展示・・・授業内容や学校行事、季節に合わせた展示をしている。
- ② 「うちどく読書記録ノート」の配付・・・「うちどく」というよりは、個人の読書記録であり、通年使用できるものである。内容を学年ごとに国語の教科書の内容と連動して多少変えて配布している。例えば、1年生のものには、POP を作製するページを入れ、そのまま、POP として図書館に活用させられたり、3年生のものには「中学3年間の読書生活の振り返り」のページを入れている。これからも生徒に添った内容にしていきたいと考えている。
- ③ フェス(読書週間)の開催・・・図書委員会の活動として、7月に「本の夏フェス」、9月に「秋フェス」、10月に「ハロウィンフェス」、12月に「クリスマスフェス」などを昼休みに開催して委員の生徒がアイデアを出し、その時期に合わせた「朗読劇」や「読み聞かせ」(生徒・司書)、七夕には竹竿に短冊を飾りつけ、ガチャガチャ抽選会、本のしりとりゲームや、時期に合わせたブックカバーやしおりのプレゼントなどを行ってきた。この期間中は、生徒のリクエスト曲も流している。貸し出し冊数は、この時期増えているが、まだまだ本に近づけるために考える余地はあると考えている。

新茶の季節の展示



(2)学習センターとして

- ① 学校図書館年間活用計画作成・・・図書館を活用したい時期、必要な資料などを各教科から書いてもらい時期がくると、教科担任と打合せを行って書籍の準備をする。
- ② 職員用図書整備・・・職員室の棚には、教科・領域に関わる実践的な教育本がずらりと並んでいるが、教職員にも気軽に読めるような、今話題の本や趣味に関する本などを棚に入れるようにしている。教職員にも本や図書館が身近になればと考えている。
- ③ 「授業と本」のコーナー(ラウンジ)・・・以前から教科書教材関連図書のコーナーは設置してきたが、それをもう一歩進めたいと考え、主に国語科の古典教材や、文学教材において、教科書関連本の脇に、出典の概要説明や授業で作成した生徒の課題作文などの展示をした。「授業と本」は、国語科の実践にとどまっているが、他教科、他領域へと広げていきたい。
- ④ 道徳関連コーナー・・・道徳の教科書に紹介されている本のコーナーを新設した。
- ⑤ 総合的な学習関連コーナー(ラウンジ)・・・1年生校外学習のテーマである「農業」、2年総合学習のテーマである「福祉・バリアフリー」の新聞記事をピックアップし展示した。関連して、同じラウンジ内に「農業」、2年生の校外学習のための「新潟市」に関する書籍を設置した。また、図書館内でも、総合学習に関連する書籍が探しやすいようにピックアップし、書架に色付けなどして探しやすいように工夫した。
- ⑥ 夏休み中の活用・・・夏休み中は、これまでも、自習室として図書館を開放してきたが、今年度も開放した。本年度から体育祭が5月実施となり、生徒に時間的余裕があり、また、近くに公立図書館などがなかったため、連日多くの生徒が活用した。
- ⑦ 図書館活用授業の実践例・・・後述



(3)情報センターとして

- ① 図書館オリエンテーションの実施・・・1年生対象に、図書館開きとして行っている。本の借り方・返し方、日本図書十進分類法の仕組みと本の探し方、また、「にいがた市 電子図書館」の使用説明を行った。
- ② 「情報活用能力体系表の作成」・・・図書館主任研修会でいただいた資料を参考に、国語の教科書から情報活用能力に関わる教材を学年ごと、項目別にピックアップし作表した。これにより情報の活用能力をどこでつけるのか、また、重点教材は何か、わかりやすくなった。(別紙)
- ③ NIEコーナーの設置・・・ラウンジの壁面を利用し、記事のスクラップを展示している。国内外の社会情勢やニュースに興味を持つことがねらいである。国内、海外のニュースに分けて掲示していたが、横断的なニュースも多いため、関係する記事には「関連」マークを表示した。



④ パスファインダーの作成と活用・・・情報活用能力における「多様な方法で情報を集める」力を身に付けるため、パスファインダーを作成した。パスファインダーの意義や利用方法について、授業で説明し、活用を促した。

⑤「探究学習のステップ&ヒント」の提示・・・「情報活用能力体系表」をもとに「探究学習のステップ&ヒント」を作成し、探究学習の進め方と各ステップで使えるツールを一覧表にして示した。ツールは、次の3つに分類し、分かりやすいマークを付けた。



ア、L-gate の教材・アプリから検索できるもの
イ、ロイロノート資料箱に格納しているもの
ウ、図書館内の探究学習ツールの棚に入っているもの

※参考文献：

『改訂版 学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』
登本洋子・伊藤史織・後藤芳文/著
(2023年)、
『チームでつくる 探究的な学び』
桑田てるみ/監修・執筆(2024年)



探究学習に関する掲示・ツールの入った棚

⑥ 「新聞デー」・・・生徒の新聞に対する意識を高めるために、年に1度、朝読書の1週間を「新聞記事」に接する時間としている。

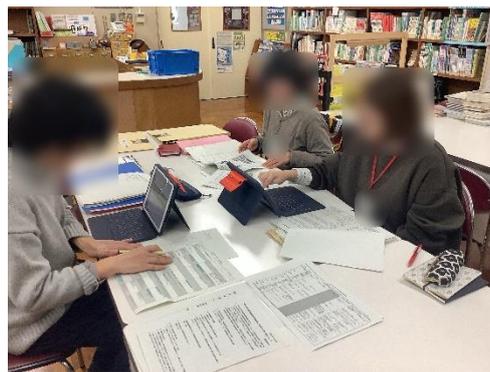
昨年度は、iPadの共有ノートを使い、自分の関心のある記事を写真で取り込み、感想を書いた。作成後、他の班員からコメントをもらい、相互評価を行った。本年度は、「ふむふむスタディー」についての説明をし、記事の感想の交流を行った。3年生は、情報活用能力表にある「報道文を比較して読む」に対応させ、国語科とタイアップした。「朝日」「毎日」「読売」3社の同日の新聞から同じ事件を扱った記事をグループで選択し、写真に取り込み、見出し、リード、記事、写真などについて、比較表を作り、記事の書き方の差異について考察した。ワークシートは作品展示期間に展示した。

「ふむふむスタディー」説明



(4) 中学校区での図書館の連携(中野小屋中・小瀬小・笠木小)

- ① 司書部会の開催・・・年 6 回開催。ICT 研修、りんごの棚設置、Canva の使用方法、実践内容の共通理解など、毎回テーマを設けて実施した。
- ② ICT 研修会と「Google classroom」の活用・・・当校の ICT 支援員を講師とした研修を受け、その後、写真・ファイルの共有や日常的な意見交換を「Google classroom」のビデオ通話機能で行った。
- ③ 「りんごの棚」作成・巡回展示・・・「りんごの棚」の蔵書が、各校に偏りがあることから、読書週間に合わせて3校合同の「りんごの棚」を作って巡回した。点字体験コーナーには、連日生徒が集まり、点字器を操作したり手話の本を読んだりして、目の不自由な人が楽しめる工夫について意識を高めていた。また、職員からは「こういった本があることをどんどん広めてほしい。」「リーディングトラッカーは必要な場合はどこで購入できるか。」という声も聞かれた。
- ④ 図書館だよりの交換・・・各校で発行する「図書館だより」を交換し、図書館内に展示している。
- ⑤ 読書郵便の交換・・・各校の児童・生徒がおすすめの本を絵日記形式で作成したものを送付し合い、各校で展示した。
- ⑥ 「農業」に関する新聞記事スクラップの共有・・・小学校と中学校で配置している新聞が違うことから、授業で扱う「農業」についての新聞記事をスクラップし各校で交換した。



点字器体験

図書館だよりの交流



「りんごの棚」本の選定



3 図書館を活用した授業実践例

(1)『自分の走り方を見直す&練習法を調べる&タイム更新！(短距離走)』(保健体育1～3年)

[授業の流れ]

- ① 自分の走る動画を撮影し、タイムを計測する。
- ② 短距離走の5つのポイントについて知らせる。
- ③ 自分の動画を確認し、自分の調べたいポイントを確認する。
- ④ 図書館でポイントごとに分類されたケースに入った書籍を自分で調べ、まとめる。
- ⑤ 全体発表する。
- ⑥ 実際に走り、タイムを計測する。



自分に合ったポイントを…!

① 自分の走る動画

② 気をつけたいポイントは？
(例) スタートの動き
↓
〇〇グループ

見本動画

③ 調べ学習

○そのポイントはなんで必要なんだろう…？

○そのポイントを探るための方法は？

○こうしないほうがいい！

授業者との打ち合わせで「学習形態」「短距離走の5つのポイント」を聞き、ポイントに合わせた資料を複数準備した。

資料にはポイントごとに色分けしたしおりを挟んだ。

資料・ポイントのしおりが揃った後、再度、授業者と資料の分け方、提供のタイミングを検討した。

授業中には生徒同士で自ら班を超えて本の交換をする様子が見られ、資料が有効であったと感じた。

[授業を終えて 授業者から]

- ・自分の調べたいポイントが載っているページに、あらかじめしおりを挟んでいたことが効果的だった。本を取って自分の調べたい記事を見つけ出すまでに時間がかかり、結果的に飽きてしまう生徒がいなかった。
- ・自分の走りに着目しながらできたのが良かった。単に『良い走り調べよう』だと、主体性に欠ける気がした。
- ・まとめ方で、こうしたほうが良い！ではなく、こうしないほうが良い！という書き方の班があり、気をつけたいと思う生徒が増えた。

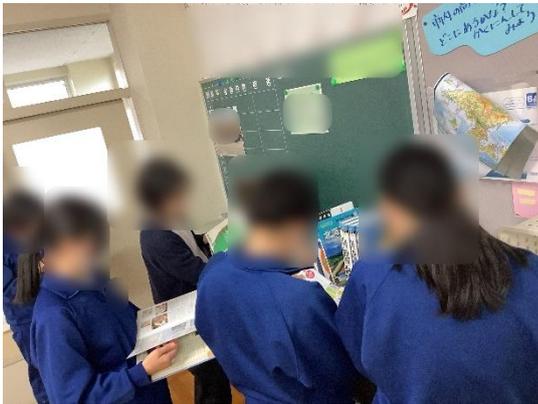


※ 同じような流れで、『自分の投げ方&練習法を調べる&記録更新！』や、保健の授業で『より深い睡眠をとるためには！』を実施した。

(2) 『地理的分野 第3章 日本の諸地域 7節 北海道地方』(社会 2年)

[授業の流れ]

- ① 学習課題「北海道地方が魅力度1位の要因は何か」について追究する。
 - ② 追究する際に、自分の意見を述べるための根拠(事実・データ)を必ず踏まえることを生徒と確認。
 - ③ 追究する方法の選択肢として、これまでの学習では教科書・資料集・地図帳を使用していたが、そこに教室内に図書資料のコーナーを設置し、環境を整備する。
- ※「都道府県調べ パスファインダー」を示し、書籍やそれ以外の様々な方法があることを伝える。その中から生徒は選択し、自分に合った方法で追究活動を行う。



教科担任と連携し、次の3種類の図書を生徒数分揃えた。

- ①統計・データ集
- ②北海道に関する網羅的な資料
- ③旅行情報誌

同時にいずれの都道府県調べにも活用できるようにパスファインダーを整備し、ロイロノートの資料箱へ格納した。教科担任から授業内で生徒へ提示してもらった。その後、修学旅行事前学習においても準備したパスファインダーが活用された。

[授業を終えて 授業者から]

生徒に選択肢を示したところ、インターネットの検索に比重を置かず、教科書・資料集・図書資料を手にする生徒が多かった。その理由として、根拠を明らかにする際、図書資料の情報は、項目ごとにまとめられているため調べやすいと答える生徒が多かった。

4 成果と今後の課題

(1) 読書センターとして

貸出冊数が増加した。令和5年度一人貸出平均22冊から令和6年度1月時点で、30冊に増加している。

今年度は、委員会中心に生徒の意見を反映した運営を心掛けた。また、掲示物なども生徒参加型のものを多く取り入れた。生徒数が少ないこともあり、図書館では他学年との交流も多くみられる。おすすめの本を学年を越えて紹介し合ったり、誘い合って来館する生徒も多い。昼休みには職員とともに本を読んでいる。書架には全校生徒が作成したPOPも掲示されている。生徒が主体的に図書館に関わる雰囲気が醸成されたためではないかと考えている。

職員の貸出冊数は、昨年度末の87冊から1月時点で120冊と増加している。授業で提示する資料や活動の参考資料としてのみならず、読書用の貸出も多い。先生方の読書を楽しむ姿勢が生徒にも伝わり、学校全体が読書に対する前向きな雰囲気を作っている。

(2) 学習センターとして

授業利用回数が増加した。公共図書館から借りた本の冊数も74冊から1月時点で360冊へと増加した。新聞を資料として貸し出す回数も増えた。

調べ学習の場面では、すぐにインターネットで調べる生徒も多く、多様な調べ方を身に付けさせることが課題であったが、書籍を豊富に用意すると書籍で調べ始める割合が高くなった。また、環境整備を続けたことで本を開くまでの時間も早くなった。今年度ははじめから、本を使った調べ学習に繰り返し取り組んでくれた授業者のおかげだと思っている。繰り返すことで手順がスムーズになった。3年生は、回を重ねるごとに説明しなくとも取り掛かる姿勢が多く見られた。

また、授業担当教員とは、最初の相談段階で、①「授業のねらい」②「何時間使った調べ学習にするのか」③「班別か個人での調べ学習か」④「資料提供のタイミングはいつか」⑤「発表の形式はどのようなものか」を聞きながら資料を集めるようにした。

課題に的確な資料を準備することが、生徒の図書活用率の増加につながると実感した。今後も教科担当者とは相談・連携し、授業の支援ができるように努めたい。

(3) 情報センターとして

「情報活用能力体系表」の作成により、情報活用について図書館でサポートできる展開が明確になった。パスファインダーの作成・格納、探究学習ツールの提示やさまざまな資料の説明・活用などの情報センターとしての基盤・環境整備に力を入れることができた。

次年度は「情報活用能力体系表」に合わせ、次の3つの方法を考えている。

- ① 情報メモや情報カードを使った情報収集の具体的な方法や著作権・引用についての指導の開発。
- ② 図書館オリエンテーションの内容に「探究学習での図書館の使い方」を盛り込むこと。
- ③ 情報担当の教員との連携の促進。

(4) 中学校区での図書館の連携

3校で取り組むことで、お互いに新たな視点から意見交換ができ、より充実した内容にすることができた。Google classroom を使い、タイムリーに情報共有することで、各校の状況を反映しながら臨機応変に対応することができた。

今後も定期的に部会を開催し、中学校区全体に対して、小中通じた取り組みに図書館・学校司書としてできることを一緒に考えていきたい。

情報活用能力体系表 中野小屋中学校

		中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
		新潟市が目指す子どもの姿		
知る	図書館の利用		○本の中の情報を目次、索引から探す。(p60)	
	分類・配架			
課題の設定	A	課題の設定	○調査内容を問いの形で絞り込む。(p60)	○継続して小説、映画、広告などから興味や関心の ある事例を取り上げ、「私の評価」メモを作る。また、 心に残る詩や文章の一篇を書き溜め「アンロジエ」 とす。(p12) ○地球社会や学校生活で解決したい課題を見つけ 議題とする。(p136～)
	B	情報の収集	○継続して印象に残った言葉をメモする。(p20) ○様々な調べ方を知る。(p60～)	○情報の信頼性を確かめる。(p32) ○プレーストリーミングでアイデアを出してから 絞り込む。(p137)
	C	調査(人・観察・実験)	○必要な情報をメモする。(p30) ○質問で話を引き出す方法を知る。(p116)	○討論を評価しながらメモをとる。(p26) ○対談をする。(p114～)
	D	図書、辞典、事典、統計資料、参考図書等の書籍	○さまざまな辞典、事典を知る。(p19)	
	E	新聞等の逐次刊行物		○報道文を比較して読む。(p64～)
情報の収集	F	インターネット情報の利用上の留意点	○情報メディアの特徴を知る。(p60～)	○美用的な文章を読む。(p62～)
	G	出典、出所、引用、著作権、参考資料一覧等	○引用文と出典を使って書く。(p64～) ○著作権と許可が必要ない場合を知る。(p66)	
整理・分析	H	図表・絵・写真の利用	○折れ線グラフ、棒グラフ、円グラフ、帯グラフの特 徴と読むときの留意点を知る。(p62～) ○図表を読み取る。(p142～)	○思考を観点・階層・関係・軸で整理し視覚化する。 (p32～)
	I	情報の整理	○情報を表、グループピング、パン図、フローチャート で整理する。(p32)	○魅力的な紙面を編集する。(p34～) ○提案を分類・整理する。(p136～)
	J	情報の分析	○意見に対する根拠の確かさ、根拠と意見の結びつ ける考えの確かさを考える。(p52) ○構成や展開の効果を考える。(p126～) ○原因と結果の関係を考える。(p135～)	○論理の展開を評価する。(p42～) ○観点から提案を検討する。(p138)
まとめ・整理	K	まとめ	○案内文を書く。(p116～) ○推敲する。(p120～) ○書評を書く。(p186～)	○論理の展開を整え推敲する。(p116～) ○批評文を書く。(p130～) ○グラフを基に小論文を書く。(p172～)
	L	発表・相互交流	○スピーチメモを活用しスピーチする。(p54～) ○グループ・ディスカッションをする。(p146～) ○フリップを使って発表する。(p230～)	○聞き手の心に訴えるスピーチをする。(p52～) ○課題解決のために会議を開く。(p136～)